



中央線 名古屋－多治見 開通 125周年

2025年7月25日に開通125周年を迎える 中央線 名古屋－多治見間。多治見の人々に愛されてきた中央線の成り立ちや変遷を紹介します。

明治25年（1892）「鉄道敷設法」公布

鉄道建設の基本方針を定めた「鉄道敷設法」により全国の鉄道敷設候補地が決まると、中馬街道や下街道沿いの村で中央線の誘致運動が起こりました。明治27年（1894）、中央線が多治見市域を通ることが正式に決まりました。

「鉄道比較線路決定ニ関スル法律」
(国立公文書館蔵)



『明治三十八年度鉄道作業局年表』より 中央線の路線図

名古屋と八王子に鉄道局の出張所が設置され、東西両方向から工事が始められました。14基ものトンネルを設けた定光寺－多治見区間は、特に大変な工事でした。

明治33年（1900）7月25日 中央線（名古屋－多治見間）開通

名古屋－多治見間を、1時間35分でつなぎました。試運転の際には、花火や餅投げなど、様々な行事が各地で催されました。また、鉄道を使った陶磁器の輸送が盛んになった多治見駅周辺には、運送店や商人宿、陶器商店が立ち並びました。明治35年（1902）には多治見－中津川間も開通しましたが、その後は日露戦争の影響で工事が遅れたため、全線開通までに11年の歳月を要しました。



多治見方面へ向かう複線電化前の中央線の蒸気機関車
右手は建設途中の池田町トンネル 昭和40年頃

駅名は「多治見」でも
駅の住所は多治見では
なかった!!

中央線のルートは、明治26年（1893）の段階で「多治見の対岸なる長瀬（停車場（駅）設置見込）を過ぎ、池田村を経て（後略）」と定められていました。駅の設置予定地とされた長瀬は、その当時は可見郡豊岡村でしたが、なぜか駅名は「多治見」。明治26年の時点では、土岐川以南の多治見だけが町制に移行していたので、国からは、対岸の長瀬も多治見の一部とされていたのかもしれませんがね。

しってる?

中央線トリビア

昭和41年（1966）名古屋－瑞浪間 複線電化

蒸気機関車のばい煙による火事が多発したこともあり、鉄道の電化が進められました。また、線路の複線化で、列車の行き違いの調整を行う必要がなくなったため、列車の運行時間が短縮され、本数も増加しました。定光寺－多治見間では線路の付け替えが行われ、大部分がトンネルになりました。

まぼろしの池田駅

定光寺－多治見間に池田駅（正式には信号場）があり、人や貨物の乗降を行っていました。昭和27年（1952）に名称が変更され、古虎溪駅となりました。



多治見について調べるなら
郷土資料室へ

地域に関する資料や皆様から寄せられた文書や記録などを、整理・保存しています。
資料は、調べ学習や研究にもご利用いただけます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までどうぞ。
皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供などもお待ちしております。



多治見市図書館郷土資料室

〒507-0034 多治見市豊岡町 1-55 ヤマカまなびパーク 4階 JR 多治見駅より徒歩5分 TEL. 0572-23-3783

開 室：火～土曜日 10時～17時（日・月・祝日・年末年始は休室） ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください。